

No.	問17 介護の仕事についての能力を高めた経験
10413	以前特養に務めていて、様々なADL・病気の方に対応できたこと、その対応方法を見てきたこと、研修での振り返り、そのくり返しだと思う。
10416	どんなに優秀な人に指導を受けても、自分の仕事に対する思いが良い仕事に取り組み考え方を生むんだと思う。
10417	日々の実務を行うことで、また、くり返しおこなうことで自分なりに吸収できた。
10421	介護も一種の接客業みたいなものと思う。以前、営業の仕事も少しやっていたため、人当たりは良くなったと自分では思っている。
10428	先輩や同僚と話をする。ミーティングなどで色々な話を聞く。他の施設で働く友人との談話など。
10431	ヘルパー2級取得後、特養で食事介助・他のボランティアをした経験が、現在の仕事の中で生かされているのではないかと思う。生きていく上で大事な食事を、いかにスムーズにおいしく召し上がって頂くか、声かけしな量が加減し、本人に合わせてペースで介助する。
10432	ベテランの排泄(おむつ交換)を見て、手際よさを目の当たりにして、自己流でなくベテランの人の技術を見ることも時に必要と感じた。
10433	理学療法士の方に、個別のケースについて、実際に利用者を介助しながら指導を受けた。
10434	日々仕事をこなして行く中で、経験から少しづつ、他の職員・先輩からの話を聞きながら、身につけた(体得して行った)こと。
10434	日々お年寄りと接することで、お年寄りの世界に順応すること。世界観が見えてくれば、どうしたら良いか対応策が見え、それが能力につながってくる。慣れ(良い意味で)は必要だと思う。
10435	はじめは何を言っているのか理解できないことが多かったが、仕事をしていくうちに、言葉が通じなくてもコミュニケーションがとれてきたこと。
10437	能力のある先輩方と勤務が一緒になったとき、観察したり、直接介護について質問をする。
10439	目の前で誤嚥を見つけ、上司が対応しているところを見た時。
10451	実務。利用者のことばや反応。外部(当事業者以外)主催の研修会で得たヒント。
10453	ヘルパーの資格を取得する際、施設、在宅ホームヘルパー、訪問(訪問看護師)等、様々な実地研修を長期にわたり行うことができ、色々な援助方法を知ることができた。
10455	入社してすぐ痴呆フロアに配属になり、とてもいい勉強になった。痴呆と決め込まないで、じっくりと接してこそ良い人間関係が生まれる経験をした。
10456	研修会に参加したこと。
10460	半身マヒの方でも、残存機能を生かした介護ができるようになった。
10464	ホームヘルパー2級の資格をとり、他の職場で働いたことがありません。ク拉拉で勉強をさせていただいています。介護はその利用者様ごとにケースが違うので大変ですが、頑張り、さらに上の資格をとりたいと思っています。
10465	ペトメーキング、食事介助、排泄介助。
10467	進んで仕事に取り組み、生じた疑問点は自ら解決を求めた。
10469	利用者さんに自分の親や自分に行く末の姿を重ね合わせてみる。
10470	経験豊富な上司からの指導⇒部下の仕事をさりげなく見守ってくれており、気が付いた都度指導していただき、大変助かりました。
10470	在宅を経験し、現在施設での経験をさせて頂いたお陰で、一級資格をとる時もすごく勉強になりました。他方面を見、聞くことができたとします。体力的には不可能(介護スタッフとして)なので、別の形でずっと介護の仕事にかかわっていききたいと思っています。
10471	痴呆の方との接し方について具体的に学ばせていただきました。
10475	常に相手あつての自分、立場を考え心のつながりが大切に今以上に務めたい。
10481	いろいろなADLの方と接し介助し学び自分を高める。
10483	社員どうしのチームプレーが大事。わからない所は素直に聞き、仕事の段取りを立てる。
10484	前の職場で、全国の老健大会に出席しました。各施設での利用者の方々の暮らしをスライドを交えて研究発表するものでした。良い施設での利用者の暮らしや笑顔を見て、同年代のお年寄りが、良い施設では生き生きとくらししているのに、上司に向上心が無く職員がなれぬいになっているのには、自分の施設での利用者はしたいこともできずただ生きてるだけなのが、自分も含め辛く感じました。上司が同僚の意識を高めるためには、知識と経験を兼ね備えた人物に自分が必要、引っぱっていきける人になろうと決めました。主体はあくまでも職員ではなく利用者なのだと感じ、今日までがんばっています。

No.	内容
	問17 介護の仕事についての能力を高めたい経験
10485	職員間の連絡を密にする。自分が自信のないことや不安なことは、他の職員に聞く。
10486	特養重度棟での勤務は、とにかくハードだったが、介護面医療面共にすごく勉強になった。先輩上司の指導がよかった。
10487	コミュニケーションによる心のケア。
10489	病院で介護職をしていたためIVH(中心静脈栄養)・点滴・フォーレ排液ラインなどがついている状態でのリネン交換・入浴・食介(食事介助)などを、多々決められた時間内に少ないスタッフで(2~4名)何十床(50床)も対応してきたことが、かなり能力を高めたことにつながったと考えます。
10493	先輩スタッフからの指導。看護師からの指導。
10498	何事にも、指導者のもと、実務をやらせてもらう。
10502	利用者も自分の大切な人だと考えたとすると、おのずと行動がついてくると学びました。(色々経験していく中で)
10503	介護経験がなく、日々勉強の毎日です。
10516	先輩の介護を見て、いいところは真似をした。自分でやってみて、よりよく(相手も自分も)負担が少ない方法を考えた。
10518	利用者の方の実態調査・個別援助計画の作成・介護全般における勉強会、またその小テスト。
10522	痴呆の利用者の不穏に対応する場合、原因を多方向から考えるよう、上司から指導を受けた。利用者に接する場合は、もちろん工作上、多方面から考えられるよう、努力して能力を高めていきたいと思っています。
10540	母親の介護経験。ホームヘルパー養成講座(2級)の講師をするため勉強した。訪問看護婦養成講座を受講。
10542	特養に3年間努め、緊急時の対応が何度もあったため。
10553	ありません。
10556	OT・PTによる身体のメカニズム(ボディメカニズム)の講習及び実技指導を仕事を始める前に何回か受けた。今でもその時の内容は覚えており、日々の介護に役立てたり、他スタッフや家族への介護講習の場などで活用している。非常にわかりやすく、また実際自分が介護される場に立つという事は良い経験であった。
10559	毎日の仕事で勉強だと思ふ。
10561	すべて初めてのことで、高齢者とのコミュニケーションのとり方、入浴介助、移乗、食事介助など、経験豊かなスタッフに教えてもらい、少しずつではあるが身に付いてきた・・・という段階です。
10566	介護福祉士取得において、とある専門学校にて実習のみ有料で受講しました。受験においての実習という中で皆一丸となつての受講は近頃味わったことのない気持ちでした。私は少し甘く考えての前年受験で、実技のみ2度目の挑戦でした。幸いに合格しました。今年2名の知人が介護福祉士を受験する時、出しゃばりながら、私みたくに2度の受験にならぬよう、自宅で講習会を開きました。ダメダメだの2人でしたが、奇跡の合格でした。私事のように喜び、嬉しかったです。今年の最大の喜びでした。
10570	基本的な介護技術の修得はもちろんですが、それよりも今まで歩んできた人生から生まれた人間性、物の見方が大事だと思う。また、趣味を多く持ち、利用者に提供できることが大事。
10573	以前の職場での体験ですが、一見通常と変わりないと感じがちな施設生活の中で、観察しようとする意識的に目を向けることにより、「どこかちがう」と、体調の変化や異常に気付くことができたこと(朝、軽度の脳梗塞により、首の緊張、足をすり合わせるような歩行、ふらつきなどがあつたので報告した)。早期発見の大切さを痛感しました。
10574	職場内をフラットにすることにより、スタッフ間や関連職が互いに情報交換したり情報共有する。スタッフ間で息を合わせたり、リーダーシップをとったり、フォローをしたり、その時その時で自分の役割につく。フレitier外の事にも興味を持つ(担当ではないが、アセスメント等に目を通したり...)。利用者だけでなく「その家族」についても知ること。また、こちらからも知ってもらうために、チャンスがあれば話をすること。(介護以外の話でもOK)
10577	入院患者の介助をしたこと。
10578	いろいろな介護経験の話を聞いたり、研修したりする。

No.	問17 介護の仕事についての能力を高めた経験
10579	ホームヘルパー2級では、介護をするには自身がなかつたが、1級を取得することにより、かなり自身がつき、仕事に生かした。特に現場実習を経験することは、ステップアップする上で大切。
10581	女性のうつ病の方にコミュニケーションをとり、やる気を持っていただいたこと。
10583	現在ヘルパー1級の講義をうけ、現在は実習のみ残すことになりました。2級の講義の時は、何もわからずでしたので質問も疑問もありませんでしたが、2級の経験が1年以上あることが(1級受験の)条件でしたので、大変勉強になっております。
10594	入居者の方々からの意見・要望が一番勉強になります。またボランティアに行き、自分はこれで良いのか? と再確認することは新鮮で、情報交換の場として、能力を高める経験につながります。
10596	一人一人違う痴呆の方と接することで、その人それぞれの対応を自分なりに考え、行動した事が少しは仕事についての能力を高めたことになるのではないかと思います。
10597	社外講習会に参加した。
10598	以前働いていた特別養護老人ホームにて、適切な介護方法などを学んだり、研修や講習会に参加させていただいたりいろいろな経験をした結果、向上したと思います。
10601	職場の先輩からの助言が大変役立っている。
10612	専門学校での実習経験(オムツ交換・シーツ交換・コミュニケーション・食事介助・入浴介助、etc)
10619	勉強会→体位変換・移動・移乗・スタッフの間のミーティング
10633	高齢者との会話、コミュニケーション、レクリエーション、一人一人に合った介護ができる。施設の現場において勉強していきました。
10634	現在のところ、特になし。
10636	年のとり方を考えさせられました。両親の介護が必要な時に、イメージしやすくなりました。
10639	前の職場で、良い上司・先輩に出会い、叱られたり、どなれたりしながら実践の中で身につけた技術が、今とても役に立っています。また、ご利用者本人から教えられる介護方法等も、能力を高める要素となりました。
10640	痴呆の方と接する時、私たちにとって意味がわからない言葉・行動であっても、その人にとっては以前の経験の何かにつながっているのではないかと、その人の背景に思いをめぐらす。
10642	学生時代の実習。
10643	リダーの介護のしかたを見て、学んだ点がたくさんあると思います。
10646	小さな訴えに関しても、不定愁訴と決めつけたくないで早めに苦痛をどりのぞけるよう報告・改善に、自分なりに努めた。その後、体調はいいのか気を付け、観察している。言葉のかけ方方には注意し、自分でできる事は自分でして頂くよう、サポートしている。
10647	他の施設への実習・研修は、自分が勤務する職場との比較がしやすく、良い点・悪い点などを確認する良い機会となり、勉強になる。
10651	訪問介護でいろいろ良い経験をしました。特に嫁、姑の確執の実態を目的の当たりにしました。
10655	現場で介護の仕事についてまだ1ヶ月です。今後、その能力を高めるよう日々努力したいと思います。
10656	お年寄りの「死」に直面した時、これからの介護についても身のあるものにしたいたいと感じた。
10671	先輩スタッフの熱心な(厳しい)指導。自学習。
10672	老健大会などに参加させて頂き色々勉強になりました。
10673	全盲の方とのコミュニケーション。
10674	医療についての知識を高めた。ターミナルケアについて。
10676	施設での実務経験は、すべての介護の勉強ができ、とても有意義です。
10677	お年寄りとのコミュニケーションがうまくとれるようになった。ベットから車イスへの移乗。いろいろな声かけの仕方。
10678	沢山(50名位)の入居者さんにめぐり逢い、ケアの経験を積むことができましたこと。

no.	10717 介護の仕事についての能力を高めた経験
10679	ホームヘルパー2級取得課程の施設での研修在宅介護体験。
10680	オムツの交換や入居者さんとのコミュニケーションを取ること。
10685	以前勤めていた職場で、経験年数が浅いのにもかかわらず、新人職員が自分につき、指導せざるを得なくなったり、意識も高まりとてもためになった。
10687	ベテランからの指導を受ける(複数人)。現場の人だけでなく、ケアマネジャーや看護師からも意見を聞いたり指導を求めた。
10688	デイサービスでトイレ介助、入浴介助、レクリエーション、食事介助、車いす誘導、外出、家族の方とのコミュニケーション、見守り、立ち上がり、バイタルチェック、声かけ、エレベーター時、すべてに対して声かけ、高齢者の方の特徴、病気の種類、病気の種類、病気が身に付きました。
10689	上司からのアドバイス・情報交換。
10697	介護は、経験年数ではなく、いろいろな高齢者障害者と数多く関わり、相手の立場に立つてどのような介護を受けたいかを考えることによって、介護の能力が高まったと思う。
10698	現在パラパラに勤務して経験を知識交換として渡し合う場がないので、能力が高まる(介護力)経験はありません。リーダーとしての管理・事務能力が少しづつアップしているのは私自身でも判明なのですが、介護者としての(語り・自信)はまだありません。
10710	経験のある上司からの指導・助言。
10715	何人ものご利用者様と会い経験を積み重ねていくこと。自己負担で行った講習会。
10717	上司からの指導と介護に接する機会を自分の方から進んでやる。
10723	身体介護で片マヒの方の、ベッドから車イスへの移動は、ご利用者さんの体の大きさ、また本人も協力してくれるかによってスムーズにできるので。
10736	習うより慣れる(経験を積むこと)。人間性を高める教育を受けること。
10737	同僚などからの指導、相談、話し合いの場を持つことにより、自分の仕事の能力も上がったように思う。
10738	実際に介護を行っている同僚、上司を見てまねること。
10739	夜間時などに急な熟発などがあつた時、経験をjして改めて再確認することができた。
10742	何故この様に介護を行うのかを理解した上での実技に取り組む。一人一人の人体は違うので、車いすへの移乗も応用をどこまでできるのかを、事故防止も含めて行う。家人の希望があるからとそのままにせず、不要と少しでも考えられる拘束類は、話し合いを重ねてやめなくてはいけないこと。
10747	現場で介護に当たっていた時、経験豊富な同僚からアドバイスを受けたことは、すぐ実践でき、自分自身の知識・技術向上に結びつき、嬉しかった。
10750	本を読む。研修に参加する。ビデオ、テレビを見る。経験者に指導を受ける。
10751	問15で、「b実務の中で、上司、同僚からの指導を受けた」にしているが、実際はほとんど、先輩の介護を見て自分で盗め、という状況だった。それが反対に意欲を高めた。
10752	研修で施設実習に参加し、能力を高めた。実務の中でベテランから指導を受け、2人介助などで能力を高めた。
10753	他施設との交流を通じよいところを学ぶ。
10761	現場での経験。(先輩による指導)
10763	介護の仕事だからこそ、介護だけにとらわれず、生活や余暇に関する催しなどに参加して、広い知識を持つようになっている。
10769	介護の仕事は初めてすることになった時に、一週間宿泊で、いくの喜楽苑で学び、介護主任の指導、助言は厳しいけれど、今も心に残り、初心にかえって、日々の介護にあたっている。
10771	祖母が痴呆のため、両親の介護の負担を減らす目的で手伝いをしてもらううちに、少しずつ、能力が身に付いてきた気がします。
10775	まだ始めて一ヶ月なのでよくわからないが、利用者一人一人の生活スタイルが何となく分かってきた。
10778	高齢者、障害者の方との接し方が少しはわかってきたかなあと思っています。入浴介助の仕方が経験を積み重ねることによってだいぶうまくいったように思います。
10780	先輩からのアドバイスや職場での実際の介護により。
10783	緊急時に当たることが多かったため、緊急時の対応が落ち着いてできるようになった。
10789	時になし。経験年数が少ないので、これから高めたいと思います。

No.	問17 介護の仕事についての能力を高めた経験
10791	特になし。
10792	不明な点は、確実に必ず上司に聞き行動し、初心をいつまでも忘れないことが大切だと思いました。また、チームワークを第一に考えることも大切だと思いま
10810	先輩に教えて頂いた。他の施設から入社された方に教えて頂いた。利用者から学んだ。上司から注意された。若い方から学んだ。他の施設に研修に行き学んだ。
10812	未経験で入社した当時、経験のある方々からのアドバイスは大変有難いものだった。一つの方法ではなく、色々な人から意見を聞いて、状況に応じた対応ができるようになった。
10815	様々な疾患をお持ちの方々には接することで、対応の仕方などを日々学んでいく。前の職場でベテランの介護職員より講習を受け、基礎的な介護の仕方、接し方(教科書どおりでないこと)を学び、実践できたこと。
10818	現在の業務である。痴呆症の高齢者の介護を主な業務としているが日々発見である。
10819	最初は利用者さんのためと思っ手をつけていたが、ADLを考慮してどこまでHelpすべきかが判断できるようになった。痴呆の方に対して、その場しのぎの対応(嘘をつくこと)も必要だということがわかった。理屈よりも即答を要求される。
10825	自分では起きられない人を起こすこと。腰が痛い訴えがある人を、できるだけ痛みが少なくしてあげること。
10827	ケアリーダーなど身近に共感できる人材がいたこと。
10841	三好春樹先生の講習会に出席した時に教えていただいた立ち上がり方や、入浴時(硬直や麻痺の方への)の工夫等、いろいろアイデアをいただいで、今も実践(覚えていくこと)しています。
10846	個人によって、介護の内容やどこまで自分で分けていたか、どこまで手伝ったか良いのか違ってくると思います。もちろん基本的な知識は必要ですが、「実務経験あるのみ!!!」だと思います。
10852	痴呆の方の介護。
10856	ご利用者とのコミュニケーションを図ること。
10866	介護福祉士の勉強をしているとき。
10868	いろいろな分野の方達との連携により、よりよい介護が提供できていると思います。そういう点がどんどん充実していくと良いですね。
10869	いろいろな介護の職場で働いてきたことが、いい経験になり学ぶことも多かった。
10872	初期研修は初めての介護経験だったので、教えてもらったことも多くありますが、少なかったから研修指導がとでも良かった。身についたと思
10882	多くの利用者や接することにより、介護の経験をひとつずつ増やすことができる
10887	資格試験前の勉強と講習会。
10889	レベルが低下し、また痴呆症状もある利用者の方への介護の仕事に配置された時に上司や同僚の人から受けたアドバイスにより、今まで自信の持てなかった仕事に取り組みやすくなった。以後その時の経験での気持ちや現在にも生かされるようになった。
10890	日々の業務。
10891	ベテランの方がスタッフの中に居たこと。どうしたら良いか迷った時、言葉だけではなく身体を使って指導して下さったこと。
20002	救急対応など、身体の手チェック。
20005	基本的には以前通っていた学校で学んだことをやっています。でも、実際介護してみると、こやったり方がいじやないかと自分で常に考えて行動しています。
20013	研修講習会等で介護の理念、原点に常に帰ることができている。基本に忠実であることができる。
20015	家族に痴呆の人がいて介護をした経験がある。未熟だがリーダーになり家族と話す機会が増え、要望やいきさつを聞くことができた。介護について同僚との話し合いにより考え方を共有、支援した。
20021	入居者と話をしている時、作り笑顔ではなく心の底から笑顔。厳しく言う時は厳しく対面で話し合うこと。
20033	同じ施設内に、自分の理想となる介護をする人と見習いたくない介護をする人がいたこと。
20035	研修・テキスト等で教えられたことは理想であり、現実には現場で仕事を覚えるしかない。(理想をふまえた上で)

no.	17 介護の仕事についての能力を高めた経験
20036	最初の2年はデイサービスで働いたが、勉強のためショートステイ特養に異動を希望し、経験を積みました。
20037	現在は夜勤が主ですが、施設で夜勤の経験があったため、仕事の流れがつかめ、仕事を続けることができました。また経験豊富なスタッフと組んで大変役に立ちました。
20038	家政婦さんに色々考えてもらったこと、実務経験の長い年教によって高められました。
20039	伸こう会に入らせて頂く前に、病院や施設で働いており、その時にとてもきびしく指導をして頂き、それが今現在も役立ち、本当に良い経験をしたと思っ頂いてます。病院で色々な人たちを見てきて、救急対応の時に焦らず対応して行くことが、伸こう会でできたと思っています。これから経験の多い人に指導をして頂きたいです。
20040	ベテランからの指導。
20041	ベテランから指導を受けた時。
20044	まだヘルパー2級を手にする前に、今の施設にボランティアとして1か月お世話になり、その時まだ経験の浅い人達ばかりでずい分苦勞しながらも、積極的に周りの人達に声をかけて教えてもらいました。その中に一人だけ、若い男の子が経験があつて、いろいろ教えてもらい、非常に勉強になりました。とにかく経験の豊かな人に指導してもらいたい。とにかく現場に出て仕事を覚えるのが一番です。常に自分を高めていきたい。
20045	今勉強中ですので、もっと勉強して行きたいです。
20056	同僚のベテランスタッフの指導。
20058	日々の職場での仕事の積み重ね。
20060	先輩方からのアドバイスがとても役立っています。講習、研修も大事ですが、日々の仕事(実践)で教わるのが役立っています。
20061	良いリーダー、サブリーダーに恵まれたと思います。働きながら身を持って指導して下さったと思います。リーダー達、上に立つ方達が体を借します、一生懸命な姿を見て、自分もなりたいという思いになり、気持ちから能力が高まることを教えていただきました。
20063	人によって介護度が違うので、申し送り等は必ずする。まして具合の悪い人がいた場合、できれば早めの対応を行う。
20064	何度でも利用者の方と接する機会を作り、同僚やベテランからの注意を思い出しながら実践を積めたこと。また、精神面でのケアもこの仕事に対するウエイトが多くなることを業務の中で経験することができ、介護に対する認識が深まった。
20069	日頃の仕事の経験で慣れていき、上手こなすようになった。
20072	自分自身の意識の向上と他ホームへの研修。また、自分なりの努力(勉強、知識を高める)日々の振り返り、反省など。毎日の経験を大きく活かしたい。
20077	救急対応時や、それに共なる応急処置。病気や医療行為に対する知識。
20080	研修や講習をした上で実務のベテランからの現実性のある指導が、能力を高められる要因でありました。
20082	資格を持つていない状況で今の仕事に就いたのですが、7月から短期のホームヘルパー2級の講座を受講し、8月に資格を取りました。その講座でのベトナムイキングや体位変換など基礎的なことを学べて、今の仕事にとても役立っています。
20084	ホームヘルパー2級の研修から、介護に携わる上での基本的な姿勢と実務上の知識を学び、サービス提供の面と自分自身の成長に大変役立っています。
20086	グループホームで痴呆対応のプロを目指したい。
20087	一人一人性格が違うように、介護も皆違い、沢山の人間と接し、経験を積み自分のものにしております。
20088	初期研修の時、帰ろうかと思つた。
20089	毎日仕事させていたでいるなかで、経験を積みさせていただいています。
20094	現場のことは現場で働いている方に聴くこと。あとはお客様とたくさん話す。
20095	やはりご利用者よりうかがったお話が自分を高めています。日々のケアの中でご利用者様よりの感謝の言葉を頂いた時、もつとケアの能力を高めたかと思っす。
20106	初めて仕事に携わり、指導して頂いた方がすばらしい方で、何でも聞き、おかげ様で今、役に立っています。指導者にもよりますし、自分の気持ちも大切だと思っています。

No.	問17 介護の仕事についての能力を高めた経験
20107	介護士としての仕事を以前に、在宅で祖父母・実父を看取ったことが、良くも悪くも生かされる時がある。
20109	先輩方からの指導から。
20113	まだホームヘルパーの資格が無かった頃、特養でスタッフとマンツーマンで教えてもらい、スキルアップすることができました。
20115	前の職場での上司の助言。
20117	介護の仕事を始めればかりなので、仕事の流れを理解するのに精一杯です。これから色々経験し、能力を高めたいと思っておりす。
20118	私の教訓として、習うより慣れるというよりはよくわかりました。十人十色というように、百人百色、1人1人の観察を(スタッフも含め)よくすることで、仕事を盗めたり、考え方の違いがわかったような気がします。
20121	指導者を付けて、同じ時間帯を数日間行う。時間がかかってもしつかり覚えられる。3ヶ月後位には夜勤も可能かと思われます。申し込みは、ホールー人以外全員出席。
20122	ヘルパー研修に参加実習を行ったこと。何事にもめげず毎日アタックあるのみ。全てのこと慣れることかも。
20147	前職(老人施設)に於いての介護のレベルが高かったので、勉強になった。入居者様が要介護度0～5迄で入居しておられ、対応方法を勉強した。
20150	まだ介護の仕事について2ヶ月しかたっていないので、毎日が勉強です。
20151	ベテランの方に利用者の方との接し方・仕事に対する心がまえ等、色々な経験を話してくれたことや教えて頂いている時。
20152	無知な自分を、先輩スタッフの方々がやさしく丁寧に教えてくださいました。
20153	さまざまなタイプのご入居者のお世話をすることで、自然に身につけてきたように思う。
20164	高齢者との会話・トランス・入浴介助。
20165	体位変換・移乗・介助等、ご利用者1人1人に合わせて行うことを目指して作業を進めさせて頂きました。今後も、上記行動や会話力など、利用者の眼の高さにあった対応を行っていくよう努めていきたいと考えております。
20168	じいさんばあさんとは、よくお話はしていましたが、介護経験はまだ始めたばかりです。知識や技能を身につけがんばりたいと思います。
20169	利用者の方々のコミュニケーション能力は、当初と比べ高められたと考えます。ベドメイキング等、実務能力は大きく向上したと考えています。
20171	施設での勉強会を設ける。講習会など。
20174	なし。
20175	全てのことに興味を持ち、実行したこと。
20176	会社が現場の状況を把握しておらず、現場にも余裕がなく、自分の介護の能力が高まったかどうかなんてわからない。
20180	事業所内での研修、本部研修施設での研修、ヘルパー2級研修、他施設での実習等での経験。
20182	まだ半年しか実務経験がないため、能力を高めたと言えません。
20186	ホームヘルパー2級資格取得講座へ通っているところが役立っている。
20187	市や町の研修会、講習会。
20189	現在の介護状況を知るための勉強会。介護技術・医学知識・レクリエーションを含めた現場学習。
20191	専門学校に行き、技術などを学習したので。
20195	利用者とコミュニケーションをとる。先輩に聞く(流れや、コツ)。
20197	なし。
20200	夜勤のため、自分なりに工夫、計画を立てて、実行しています。
20201	理論と実際の状況があまり合わないもので、やっぱり実際にふまえて常に考えながら仕事をやるほうが、もつと効率的であると思います。
20209	人間の死。他人のがんばり。
20211	グループホームでのケアリーダーの経験。
20221	施設と在宅両方での経験ができたこと。また役職をもらえたことで、様々な仕事が経験でき次に役立ったこと。

No.	問17 介護の仕事についての能力を高めた経験
20223	現場で習得することがほとんどです。ケアの仕方は利用者一人一人違っても過言でなく、各々と関わっていく中でお互い覚えていくもの。
20225	利用者とのコミュニケーション。
20226	緊急対応(夜間、突然体調を崩されたり...)。
20227	仕事を始めて1年近くたってから、マナー研修を受け、他のホームを見学しました。それが今までの仕事を見直すチャンスになったと思います。
20230	高齢者に対する接し方、痴呆、障害者の対応、緊急対応方法。
20233	介護福祉士の方から体位変換や移乗の方法を教わり、自分もその通り実行したら、利用者の負担が明らかに減ったことを実感した。
20235	高齢者の方に対する積極的な声かけ。
20236	痴呆の方への接し方は、勉強するだけでは上手にできず、実際にベテランの方が接しているところを見て、状況によっての接し方を学ぶことができました。
20237	有能な人の動きをよく見て、自分に吸収する。
20240	先輩の指導により、細かく覚えることができた。
20241	痴呆などの研修に行った。いろいろ話を聞いた(ナース、Dr、上司)。
20242	ヘルパー2級の講習会では、まったく何も知らなかったこの介護の世界で、とてもよくなってよかったです。
20245	何の知識もなく福祉の世界に入ってきたので、実務で先輩方に叱られながら学ぶことが多かったです。今思うことは、危険ということに気づかないということは、とても怖いことだと思います。
20246	実務経験、先輩からの指導。
20247	移乗は、リハビリの先生に具体的に教わったことがあります。入居者との接し方については、他の病院の担当の方に来て頂き、講義をうけたことがあります(いずれも前職場にて)。理論的・学術的(心理学的)に学べて仕事に役立ちました。
20248	自分の心をオープンにして、利用者の方のお話をできる限りお聞きすることで、信頼関係ができ、一歩ふみこんだケアができるようになった。
20250	メンタルケアの勉強、サービスとは何か。
20251	色々な施設を見て働いて経験したこと。
20254	施設の現御入居者との関わりにおいて、多くのことを学ぶ機会を与えられたことと、また御入居者1人1人に自分が支えられているということ(日々の仕事の中で指導力のある特別養護老人ホームに実習に行ったこと。同僚からの指導。経験談をできる限り聞き、様々な可能性を考えて、それを同僚とディスカッションして)
20255	父親のターミナルケアを自宅で行った際、日常生活においての様々なケアをその時に自分なりの工夫をしてゆくことで実務の能力を向上させたように感じている
20263	社会人として、他の会社組織で長年仕事をして、その上で多くの人々と接してきたことが、今日の仕事の中に生かされていると思う。とりわけ、病院での助手業務で取得した医療面での知識は、現在も役立っている。
20266	責任をもって、1人で仕事をできるようになってから、力がついてきたと思う。
20270	特になし。経験年数が少ないので、これから高めたいと思います。
20276	東京研修で、上司にいろんなことを教わった。
20277	何事も一つ一つが能力UPにつながっていると思う。また、今までの経験や、人とのかかわりをいかすことによって介護の仕事の能力として発揮することができることもわかった。
20279	自分のミスにより利用者を転倒させてしまい、以後転倒のないように先輩からの助言や自分なりに勉強して、それから転倒をさせることがなくなった。
20282	病院で働いている時に、エンゼルケアをしたことです。患者様のお世話をするだけでなく、最後までお世話をさせて頂いたことは、いい経験だったと思います。
20285	3年間病院で勤務し、整形病棟、内科病棟、ICU(集中治療室)と急性期の状態の方まで介助する事ができて、車イス移動、褥そう、身体の異常時の早期発見等、医学的勉強も看護婦さんから教えて頂くことができて、良かったと思います。
20305	半身不随の義父を10年間お世話したことです(必ずありがたう!!を云って下さいました)
20306	毎回のメモ(自分・他人)を検討して、次に備える解らないことは早く調べておく。色々な人に聞く。研修に出るようにする。そうすると、必ず新しい発見がある。

No.	問17 介護の仕事についての能力を高めた経験
20317	<p>1. 介護福祉士の国家試験のための学校(通信)での学び①パーバー試験のための試験勉強による知識アップ(かなりの勉強量)。②2次試験のための実技対策として、その学校などで必死で実技を学んだこと。</p> <p>2. 現在、福祉大(3年在籍)で社会福祉専攻の学びによる知識よっての向上。</p> <p>3. 施設が人手不足の時に、半身不随のクライアントの介護を、できないながらもさせて頂いたこと(まだ入社間近の時)。</p>
20322	<p>病院でお客様のお付き添いをした際、複数の看護師の介護を見る機会を持つことができ、大変勉強になった。それを自分なりに実行することにより、確実に能力が高まったと感じた。同じことを他のお客様に対しても実行できた時、自信につながる。勉強と経験を重ねることによってのみ技術の向上が得られる。</p>
20325	<p>まだヘルパーの資格等は持っていないが、実際に老人と接して心が通じ合った瞬間の充実感はとても暖かく楽しいことでした。また、高齢になるということは誰でも通る道であり、自分のこれからの行き先を考えさせられた。講習会等仕事場以外で勉強する。</p>
20329	<p>常に技術・知識の研鑽を積んで良き仲間と仕事ができた。講習会等仕事場以外で勉強する。</p>
30004	<p>経験者の方のアドバイスが、未経験者の私にはとても参考になりました。本で勉強したことと、実際行なりことのギャップは、経験した者しかわからないと思います。介護は経験の積み重ねだどつくづく感じています。迷った時に的確にアドバイスをもらえる上司が居ることで、自分自身に少しずつ自信をもって仕事ができるようになってきました。</p>
30005	<p>入浴介助、利用者とのコミュニケーションを多くしたこと。「痴呆の方への対応、バリエーション講座」への参加。「施設見学」への参加。</p>
30006	<p>介護職の先駆者の講師の先生からの研修。→痴呆の方への対応、バリエーション。</p>
30018	<p>あつてはいけないことであるが、転倒や何らかの事故が、仕事への危機感・責任感をもたらし、その結果、学習するようになった。</p>
30020	<p>デイサービスと在宅介護を両方経験しています。在宅介護は密室の中で行われるので、他の方と会うことも見ることもなく、まったくの自己流です。デイサービスに行っているおかげで、他の方の介護の仕方を学べました。ヘルパー2級のみの勉強では、在宅介護はとて無理だと思えます。もっと勉強する機会を持たなくては、向上することはとうとう望めません。</p>
30030	<p>介護の仕事は、また1年経験過りました。毎日デイサービスに楽しい日と利用者を生かして生活しています。心の中、座右銘は、「親に大切に愛されるほど、人は自分を大切に愛することができる」。このことは大切です。</p>
30031	<p>レクリエーション研修。</p>
30045	<p>能力の高い先輩にマンツーマンで指導してもらった。(新人に1人ずつ経験者をつけて、いつでも相談にのってもらえるシステムがあった)。有料のセミナーに通った。職場で月1回、講師を呼んだセミナー(無料)が開かれていた。上司が24時間いつでも相談にのれるシステムがあった。職場の同僚と研究会を作り、月1回の事例検討会を続けた。</p>
30046	<p>介護の仕事を始め3ヶ月(実務は2ヶ月)なので、まだまだ介護能力は不十分だと感じています。車イスでの移動、入浴介助、排泄介助、利用者さんとの接し方等は、実務経験の積み重ね、その時々の上司や看護士の適切なアドバイスを役に立っています。(デイサービス勤務)</p>
30047	<p>介護老人保健施設にて働いていましたが、痴呆・レベルの差や、同じ人間への対応への対応の難しさをすごく実感させられました。</p>
30049	<p>入浴、レクリエーション、コミュニケーション。</p>

ケアマネージャー（介護支援専門員）の仕事と能力に関するアンケートのお願い

平成 14 年 9 月

この調査は、厚生労働科学研究（政策科学推進研究事業）「介護関連分野における雇用・能力開発指針の策定に係わる研究」の一部として実施させていただくもので、介護の仕事と能力の対応モデルを示すとともに、能力開発型の人事処遇制度を提案することを目的としています。

このアンケートは、ケアマネージャーとして働く皆さまを対象に、仕事の内容、仕事を行なう能力、仕事に対する意識などをおうかがいし、介護保険報酬算定基準のあり方や介護保険制度上のケアマネージャーの位置づけをより良いものにするための基礎資料とするものです。

お忙しいなかたいへん恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、この調査は無記名式で、ご記入いただいた回答結果は、統計的に処理いたしますので、個人ごとの回答が特定されることはありません。どうぞありのままをご記入ください。

厚生労働科学研究（政策科学推進研究事業）

「介護関連分野における雇用・能力開発指針の策定に係わる研究会」

主任研究者	小笠原浩一（埼玉大学経済学部 教授）
分担研究者	佐藤 博樹（東京大学社会科学研究所 教授）
	林 大樹（一橋大学大学院社会学研究科 教授）
	大木 栄一（日本労働研究機構研究所 副主任研究員）
研究協力者	工藤 健一（一橋大学大学院博士課程）
	堀田 聰子（UFJ 総合研究所 研究員）

ご記入にあたってのお願い

- この調査の対象になるのは、ケアマネージャー（介護支援専門員）の資格を有し、介護保険制度におけるケアプラン作成の仕事にたずさわる方々です。
- お手数ですが、すべての質問についてお答えください。
- 回答が終了しましたら、同封の返信用封筒に入れて、10月15日までに投函してください。ご自分のご住所、お名前などは、けっして書かないようにしてください。

お問い合わせ先： 埼玉大学経済学部小笠原研究室 Tel/Fax 048-858-3326
e-mail: koichi@eco.saitama-u.ac.jp

ケアマネジャーの仕事に係わる職業能力について

問1 下表の「業務名」の a、b、c には、ケアマネジャーの行う仕事例が書いてあります。自己採点でこの仕事例をどの程度「できる」と判断されますか。たとえば、「確実にできる」とご自分で判断される方は「5」に○をつける、といった具合に、「5」～「1」の5段階の中から該当する番号1つに○をつけてください。あげられている業務の実務経験がない方でも、どの程度「できる」かを判断してお答えください。

直接業務

業務名	仕事例	確実にできる	かなりできる	だいたいできる	少しはできる	ほとんどできない
		90点以上	70～80点	50点前後	20～30点	10点以下
ケース発見	a 来所や電話で相談があった場合に、落ち着いて話を聞くこと。	5	4	3	2	1
	b 民生委員、関係機関、事業者などから連絡があった場合に、当該ケースに連絡をとり、進んで相談に応じること。	5	4	3	2	1
	c 協力機関やインフォーマル・ネットワークによる情報収集を日常的に行ない、積極的に訪問をし、潜在化ケースの発見につなげること。	5	4	3	2	1
相談・分析	a 問題の内容や発生経過などについて質問し、状況を把握すること。	5	4	3	2	1
	b 初回面接で、相談者が言葉で表現していることの奥にある解決したい問題を理解し、主訴をほぼ間違いなく把握すること。	5	4	3	2	1
	c 主訴を把握した上で、最適なアプローチや最適な事業者などをイメージしながら、どのようなサービスが適切かを助言すること。	5	4	3	2	1
アセスメント	a MDS-HC や居宅サービス計画ガイドラインなど定められた形式に沿ったアセスメント票を使いながら、項目通りに記入していくこと。	5	4	3	2	1
	b アセスメント票を見ながらではなくても、利用者や家族の要求を理解するために必要な情報を聞き取ること。	5	4	3	2	1
	c 利用者の生活歴、価値観、思考のパターンなどを理解し、QOL の向上につなげる上での問題点を明らかにし、長期的な処遇方針に立って解決すべき課題を判断すること。	5	4	3	2	1

業務名	仕事例	確実にできる	かなりできる	だいたいできる	少しできる	ほとんど できない	
		90点以上	70～80点	50点前後	20～30点	10点以下	
ケアプランの原案作成	a	利用者本人や家族の求め通りにケアプランをつくること。	5	4	3	2	1
	b	利用者本人や家族が求めるサービスであっても、さらに主治医や事業者などの言い分を加味しながら、ケアのあり方として適切かどうかという自分の判断をもつこと。	5	4	3	2	1
	c	とくに痴呆や独居の方について、将来に予想される利用者の状態変化を考慮しながら、それに備えたケアプランを構築すること。	5	4	3	2	1
ケアプランの調整・実施	a	利用者本人や家族に対し、ケアプランについて、順序だてて説明し、本人・家族の希望があればケアプランを修正すること。	5	4	3	2	1
	b	利用者本人や家族の希望に加えて、主治医や事業者の要望も考慮し、さらに地域のインフォーマル・サービスとの連携などにも配慮しながらケアプランを総合的な視点から調整すること。	5	4	3	2	1
	c	利用者本人や家族が必要なとしているサービスや、主治医や事業者とサービスについて意見が異なっても、状態や環境から判断して必要と思われる場合には、その必要性を相手にわかるように説明すること。	5	4	3	2	1
モニタリング	a	利用者本人や家族と定期的に連絡を取り、サービスがケアプラン通りに実施されているかどうかを把握すること。	5	4	3	2	1
	b	利用者の処遇に関係している他の専門職や事業者などと連絡をとりあい、状態の変化について情報を収集すること。	5	4	3	2	1
	c	利用者の状態変化の流れが誰にでもよく分かるように整理されたモニタリング記録を作成すること。	5	4	3	2	1
ケアプランの修正	a	利用者本人や家族の要望を聞き、それに応じて、ケアプランの再設計を行なうこと。	5	4	3	2	1
	b	利用者、家族の要望に加えて、ケアマネージャーとしての自分の判断も入れながら、ケアプランの再設計を行なうこと。	5	4	3	2	1
	c	利用者、家族の要望や自分の判断に加えて、処遇に関係してきた専門家や事業者の意見も取り入れながら、ケアプランの再設計を行なうこと。	5	4	3	2	1

間接業務

業務名	仕事例	確実にできる	かなりできる	だいたいできる	少しできる	ほとんどできない	
		90点以上	70～80点	50点前後	20～30点	10点以下	
要介護認定調査	a	利用者本人や家族の説明を正確に調査票に転記すること。	5	4	3	2	1
	b	排便・排尿の状態など聞きづらい部分でも、情報に欠落や不足が生じないように正確に聞き取りすること。	5	4	3	2	1
	c	痴呆高齢者との面接において、本人や家族の言葉はそれとして尊重しながらも、客観的に状態を把握すること。	5	4	3	2	1
給付管理	a	サービス利用実績および前月までの月遅れ分の実績を、利用者・家族へのモニタリングや事業所への確認をとりながら、正確に給付管理票に記載すること。	5	4	3	2	1
	b	返戻分は内容を精査した上で、給付管理票については新規または取消分で、居宅介護支援給付費については新規分で再度請求すること。他サービス事業者より修正の依頼があった場合には、その請求月の給付確認票等を点検し、対応すること。	5	4	3	2	1
	c	月間の自分の仕事量を全体として考慮しながら、給付管理業務を期日までに遂行すること。	5	4	3	2	1
苦情解決	a	苦情として主張されている内容を正確に聞き届けること。	5	4	3	2	1
	b	苦情の原因を特定し、サービス提供者側に改善すべき点がある場合には改善点を整理した上で、関係事業者や担当者に説明し、解決まで導くこと。	5	4	3	2	1
	c	苦情を解決するにあたり、同種の苦情が繰り返し発生しないような予防策を講ずること。	5	4	3	2	1

業務名	仕事例	確実にできる	かなりできる	だいたいできる	少しできる	ほとんどできない	
		90点以上	70～80点	50点前後	20～30点	10点以下	
サービス担当者会議の運営	a	定期的に予定されているサービス担当者会議について、各関係者に日程等の連絡調整を行ない、開催の準備をすること。	5	4	3	2	1
	b	利用者の状態変化などに応じてサービス担当者会議を開催すべき状況かどうかを判断して、関係者に伝え、開催に必要な調整を行なうこと。	5	4	3	2	1
	c	必要に応じて利用者や家族が会議に同席を希望するかどうかの確認を行ない、同席を希望しない場合でも、事前・事後に意見を聞き、ケアプランに利用者や家族の意向が反映されるように配慮すること。	5	4	3	2	1

業務の担当頻度、指導経験・能力について

問2 あなたは、問1でお答えいただいたそれぞれの「業務」について、どれくらいの頻度で実際に仕事を行なっていますか。それぞれの「業務」について、「週に必ずあるもの：3」～「月に必ずあるもの：2」～「それ以下の頻度：1」の3段階の中から該当する番号1つに○をつけてください。ただし、a、b、cのレベルは問いません。

	週に必ずあるもの	月に必ずあるもの	それ以下の頻度
直接業務			
ケース発見	3	2	1
相談・分析	3	2	1
アセスメント	3	2	1
ケアプランの原案作成	3	2	1
ケアプランの調整・実施	3	2	1
モニタリング	3	2	1
ケアプランの修正	3	2	1
間接業務			
要介護認定調査	3	2	1
給付管理	3	2	1
苦情解決	3	2	1
サービス担当者会議の運営	3	2	1

問3 あなたは、問1でお答えいただいた「業務」について、bのレベルの仕事例を新人に指導することができますか。「指導経験があるし、指導もできる：3」～「指導経験がなく、指導もできない：1」の3段階の中から該当する番号1つに○をつけてください。

	指導経験があるし、 指導もできる	指導経験はあるが うまく指導できない	指導経験がなく、 指導もできない
直接業務			
ケース発見	3	2	1
相談・分析	3	2	1
アセスメント	3	2	1
ケアプランの原案作成	3	2	1
ケアプランの調整・実施	3	2	1
モニタリング	3	2	1
ケアプランの修正	3	2	1
間接業務			
要介護認定調査	3	2	1
給付管理	3	2	1
苦情解決	3	2	1
サービス担当者会議の運営	3	2	1

保有資格とこれまでの職業経歴、仕事の経験について

問4 あなたの所有資格とこれまでの仕事の経験についておうかがいします。

a) あなたは、ケアマネージャーになる前に、何の仕事をされてきましたか。該当する番号1つに○をつけてください。

- | |
|---------------------------------------|
| 1. ホームヘルパーや介護施設の直接処遇の仕事 |
| 2. ソーシャルワーカーやケースワーカーなど、直接処遇以外の福祉関係の仕事 |
| 3. 医療関係の仕事 |
| 4. その他 |

b) あなたは、以下のうちどの資格をお持ちですか、お持ちの資格の番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|--------------|--------------------------------|
| 1. 医師 | 11. あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師 |
| 2. 歯科医師 | 12. 栄養士（管理栄養士を含む） |
| 3. 薬剤師 | 13. 義肢装具士 |
| 4. 保健師 | 14. 言語聴覚士 |
| 5. 助産婦 | 15. 歯科衛生士 |
| 6. 看護師・准看護師 | 16. 視能訓練士 |
| 7. 理学療法士（PT） | 17. 柔道整復師 |
| 8. 作業療法士（OT） | 18. 精神保健福祉士 |
| 9. 社会福祉士 | 19. 1.～18. の資格はないが、介護の仕事の経験がある |
| 10. 介護福祉士 | |

c) その資格での仕事の経験年数はどのくらいですか、枠内に数字をご記入ください。

複数の資格をお持ちの方は、そのうち、ケアマネージャー資格を取得するのに使った資格での仕事の経験年数をお答えください。

経験年数 約 年

ケアマネージャー資格の取得に使った資格の番号をご記入ください。

d) すべての方におうかがいします。

あなたは、b) にあげた資格以外に介護・福祉関係の公的資格（例：ホームヘルパー1級、社会福祉主事など）をお持ちですか。該当する番号1つに○をつけてください。また、お持ちの方は、その資格名をお答えください。

- | |
|---|
| 1. 資格を持っている
⇒ 資格名 <input type="text"/> |
| 2. 資格は持っていない |

問5 ケアマネージャーとしてのこれまでの仕事の経験についておうかがいします。

a) あなたはケアマネージャーの資格を取得し、実際に仕事を始めてからどれくらいになりますか。以下の番号1.～4.のうち、該当する番号1つに○をつけてください。

1. 6ヶ月以下	2. 7ヶ月から 12ヶ月以下	3. 13ヶ月から 18ヶ月以下	4. 19ヶ月以上
----------	--------------------	---------------------	-----------

[以下、問11までは、居宅介護支援事業に関係のある方のみお答えください]

[居宅介護支援事業に関係されていない方は、問12にお進みください]

b) あなたは、平成14年10月1日現在、何件のケースを担当されていますか。入院などの理由で現在はサービスを使っていない場合でも、平成14年度に入ってから担当したケースはすべて数に入れてください。また、給付管理の実績数に限定するのではなく、介護保険報酬請求には至らなかったが担当したケースをすべて数えてください。

	件
--	---

c) あなたが、介護保険制度のもとでケアマネージャーの仕事をするようになってから平成14年10月1日までの間に、担当した終了ケースの総計は何件ぐらいになりますか。上のb)でお答えいただいた現在の担当件数は除いて計算してください。

	約	件
--	---	---

問6 あなたは、ケアプランの調整・実施にあたり、利用者本人または家族から、自己負担額を抑制するよう求められた経験がありますか、該当する番号1つに○をつけてください。また、「1. ある」に○をつけた方は、求められた上限額をおおよその額で結構ですから、数字を記入してください。

1. ある 2. ない	→		万		千円くらい
--------------------	---	--	---	--	-------

問7 あなたは、ケアプランの原案作成にあたり、利用者本人や家族の所得の状況について、情報を得ておくように努力していますか、該当する番号1つに○をつけてください。

1. 努力している	2. とくに努力のようなことはしていない
-----------	----------------------

問8 問5のb) およびc)でお伺いした担当ケース全体の中で、自分がケアマネージャーとして最も適切だと考えるサービスが届けられなかったケース、あるいは現に届いていないケースがありますか、該当する番号1つに○をつけてください。また、「1. ある」に○をつけた方は、そのようなケースは担当ケース全体の何割くらいになると思われますか、数字を記入してください。

1. ある 2. ない	→	およそ 割
--------------------	---	--

問9 問8で「1. ある」と答えた方に伺います。あなたは、自分が最適だと考えるサービスが届けられなかった理由は何だと思われますか、**最もあてはまる番号1つ**に○をつけてください。

<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族ができるだけ自分たちで面倒をみたいと希望したため。 2. 家族が世間体を気にしてサービス利用を抑制したため。 3. 経済的な事情で思い通りのサービスが利用できないため。 4. 利用可能な在宅サービスや施設が地元になかったため。 5. ケアプランについて上手く説明できず、理解が得られなかったため。 6. その他（具体的に： _____）
--

問10 あなたがこれまで担当されてきたケースの中に、介護保険のサービスが必要であると判断されるのに要介護認定の申請を行わないとか、要介護認定は受けたのにサービスを利用していないケースがありましたか、該当する番号1つに○をつけてください。

1. ある	2. ない
-------	-------

問11 問10で「1. ある」と答えた方に伺います。そのようなケースでは、なぜ、要介護認定の申請を行わなかったり、あるいはサービスを利用しないと思われますか、**最もあてはまるもの1つ**に○をつけてください。

<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者本人が、経済的な理由から、申請やサービス利用を希望しないから。 2. 利用者本人が、経済的理由以外の理由から、申請やサービス利用を希望しないから。 3. 本人は希望しているが、家族が、経済的理由から、申請や利用を希望しないから。 4. 本人は希望しているが、家族が、経済的理由以外の理由から、申請や利用を希望しないから。 5. 必要なサービスや施設が地元がないから。 6. その他（具体的に： _____）
--

